

市長の施政方針表明の要旨と予算

『道』険しくとも

財政回復に全力を傾注

三月七日、昭和六十一年第一回市議会定例会で、市長が表明した「施政方針」の要旨と予算を二ページにわたって掲載しました。国の新年度予算案は、前年度に比べ三%増の五十四兆八百八十六億円と、四年連続して一般歳出の伸びなどをゼロとした超緊縮型予算となっています。これは地方財政計画にも大きな影響を与え、中でも国庫支出金のうち補助金については、前年度の高率補助金の一律一割削減に引き続き、補助率の引き下げが今後三年間行われることになりました。自主財源に乏しい本市のような自治体にとっては、特に厳しい財政措置と言えます。このため市長は「本市の財政事情が、とりわけ深刻な中で、できる限りの措置をしたつもりです。なお意を尽くせない点は、今後も引き続き、精いっぱい努力したい」と所信表明を結び、市民の皆さんに対して、これまで以上に市政への理解と協力を求めています。

歳出の節減を図り 繰り上げ償還を優先

本市の将来の飛躍と発展にとって、財政の健全化は避けて通ることのできない課題であり、できるだけ早く起債制限団体から脱却して、その対応力の回復を図ること

は、市民生活の安定と向上のため、緊急な政策的な重要課題です。このため、徹底した歳出の見直し、節減を中心として財政改革の着実な推進に努め、特に五十九年度からは、市債の繰り上げ償還を最優先に進めてきました。特に、本年度一般会計予算の編

経済力、人口とも 着実な伸びを示す

幸い経済力指数においては、県内で二十市のトップで、全国六百五十二都市中、九十七位にランキングされるなど前途明るい好情報も発表され、市政を預かる者の励みともなっています。また、本市の人口は、六十年国勢調査では三万四千二百三十五人と、五年前より三・二%、千四百八十八人増加し、今後も大規模な宅地整備などで、いっそう拍車がかかるものと推測されます。そのうえ、高速交通時代を迎え、上越新幹線と関越自動車道の全線開通は、本市の産業、経済、文化の発展に、その期待は計り知れないものがあります。一方、総人口

に占める六十五歳以上の人口割合が進み、高齢化社会が確実に進行してきています。

総合計画に基づき 計画行政の推進

こうした状況を踏まえ、六十年度において第二次総合計画の期限切れを迎えることから、本市を取り巻く諸情勢の大きな変貌を考慮しながら、二十一世紀に向かって市民の多様なニーズや各地域課題に対応する総合的な都市づくりを合理的、計画的に推進するための新たな計画、いわゆる第三次白根市総合計画を策定するべく、今回の議会に提案いたしました。この第三次計画を着実に実現するためにも、今は財政健全化を急がなければなりません、近い将



3月議会で61年度の施政方針を述べる滝沢市長

成は、財政の健全化を推進するにあたって、極めて重要な年度と言えます。今後とも引き続き、六十二年起債制限団体脱却に向けて強力に健全化計画を進めていくため、努力を重ねていく所存であり、市民各位の理解と協力を願うものです。

来には、特に市民要望の強い総合体育施設をはじめ、図書館や民俗資料館などを含む総合文化会館の建設、学校施設整備などは、目標年次までに計画的に実現していくべく、ご理解願いたいと思います。そこで本年度は、市民の希望と英知を盛り込んだこの第三次総合計画のスタートの年であり、実施計画の策定を行い、計画行政の推進に努め、調和のとれた市民都市を目指して努力していきたいと思

当面する重点的 施策として…

北部工業団地の造成

こうした中、現在、北部工業団地の造成工事を急ピッチに進めるとともに、優良企業の誘致に努力しています。

このことについては、本市の行政を潤すのみならず、雇用機会の拡大、商業活動の活性化など、その波及効果は広く市民生活全般につながり、市勢発展を確かなものとしします。

現在、数社から立地希望がありますが、今後も引き続き優良企業の誘致に積極的に取り組み、最大限の努力をしていきます。

ほ場関連道路の整備

次に、先般の全員協議会で協議をお願いした、ほ場関連道路整備

として八十九路線、約六十九キロの改良と、このうちの三十六路線五十七キロの舗装を三か年計画で実施します。

これらを完了すると、現在の舗装率六五%が、実施後には約八〇%となる見込みです。

また、残りの五十三路線と他の未整備市道については、あらゆる制度を検討し、その制度を活用しながら長期的計画目標に向けて努力してまいります。

総合体育施設の建設

さらに、長年の懸案である総合体育施設の建設については、市民の強い要望と、加えて本市における文化・スポーツ活動の場の少ない現状を重視し、総合公園的構想で、体育施設の建設に向けて六十年一年度から基本設計などに検討を加える考えです。

一般会計予算総額は 五十七億五千万円

以上、申し述べた基本的な方針を踏まえて、昭和六十一年度一般会計予算は、総額で五十七億五千万円を計上し、前年度当初予算に比べ、五%増で編成しました。

特別会計と 企業会計予算

次に、昭和六十一年度白根市老人保健特別会計予算については、

前年度当初比三・四%増の十五億七千八百二十九万三千円を、また昭和六十一年度白根市国民健康保険勘定特別会計予算については、〇・四%増の十七億七千七百万円を計上しました。

昭和六十一年度白根市ガス事業会計予算については、収益的収支のうち収入では四%増の十億三千三百八十六万九千円を計上し、支出では九億八千八百八十二万三千円、差し引き四千五百四十六千円の当年度利益を見込み、資本的収支のうち支出では、一億九千五百十三万九千円を計上しました。

同じく白根市水道事業会計予算については、収益的収支のうち、収入では二%増の六億五千七百七十二万一千円を計上し、支出では六億一千二百八十一万八千円、差し引き四千四百九十九万三千円の当年度利益を見込み、資本的収支のうち支出では、一億四千五百九万三千円を計上しました。

* * * * *

市長の施政方針演説の中から、予算編成にあたっての基本的な考え方を、一部抜粋して掲載しました。

各部門の主要な施策についての概要と考え方は、六ページ以降で紹介いたします。